

Ⅱ-6 いろいろなことにチャレンジしよう！体験のススメ！

あなたが子どもの頃と、今のお子さんとは生活環境や生活スタイルがずいぶんと変化してきました。便利になった分、学ぶきっかけなどを失ったものもあるのではないのでしょうか。

ここでは、子どもたちが「生活体験」や「自然体験」を通して学ぶことについて考えてみることにしましょう。

【エピソード】



ワーク1 ●子どもたちが活動している写真を見て、吹き出しにことばを書いてみましょう。

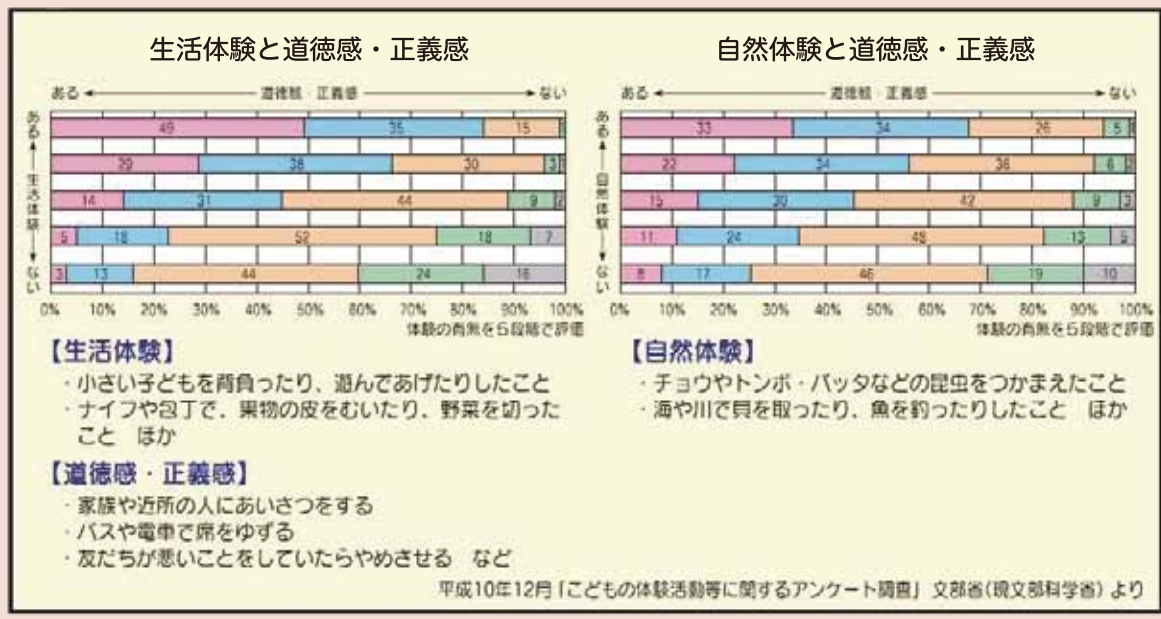
ワーク2 ●写真の子どもたちは、このような体験を通して、どう変わっていくと思いますか？
グループで話し合ってみましょう。

ワーク3 ●体験を通して、子どもにとってプラスになることを3つ書いてみましょう。

•
•
•

ワーク4 ●お子さんと一緒にしたい「体験」や、させたい「体験」を考えてみましょう。

資料



ふりかえり ●このプログラムを通してどんなことに気づきましたか？

ねらい	<p>子どもたちは体験を通して、驚きや感動、自然を大切にする心や忍耐など多くのことを学ぶ。しかし、時代の急激な変化とともに、私たちの生活環境が大きく変わってきた今日、子どもたちの「生きる力」をはぐくむ様々な生活体験、自然体験の機会も大変少なくなっている。</p> <p>そこで、保護者自身が「生活体験」や「自然体験」を通して学ぶことの大切さに改めて気づき、日常生活の中で様々な体験を子どもと一緒にするためのきっかけとする。</p>		
実施のポイント (評価など)	<p>○子どもにとって、様々な体験を通して学ぶことが大切であることに気付くことができる。</p> <p>○子どもと一緒にできる体験、子どもにさせたい体験を見つけることができる。</p>		
事前準備	<p>○マーカー ○ワークシート ○筆記用具 ○模造紙 ○付箋紙</p> <p>○会場設営（1グループ4～6名程度の机といす）</p> <p>○名簿によるグループ分け（意図を持たせたいときはこれに限らない）</p> <p>○テキストの印刷（A4版2枚に分けて印刷）</p>		
時 間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物
導入 20分	<p>ワークの趣旨説明</p> <p>○アイスブレイク「3つのコーナー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部屋の隅に [YES][NO][?] と書いた紙を張っておく。 ・ファシリテーターが「生活体験」「自然体験」にかかわる質問をし、当てはまると思えば [YES]、思わなければ [NO]、どちらとも言えない場合は [?] のいずれかに、参加者に移動してもらおう。 ・ファシリテーターは、質問ごとにそれぞれのコーナーに分かれた参加者に、なぜそう思うのか書きながら進行する。(各コーナー3名程度、インタビュー形式) <p>○グループ分け・自己紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の名前、子どもの性別・学年・アイスブレイクの感想などから、一人30秒程度で行う。 	<p>〈質問の例〉</p> <p>Q1 子どもには、進んでお手伝いをさせている。</p> <p>YES→どんなお手伝いをさせていますか？ 進んでお手伝いをさせる理由はありますか？</p> <p>NO→進んでお手伝いをさせたいことに、理由はありますか？ させたいお手伝いはありませんか？</p> <p>? →YESにもNOにも行かなかった理由は？</p> <p>Q2 休日は、子どもと一緒に過ごすことが多い。</p> <p>YES→どんな事をして過ごしていますか？</p> <p>NO→一緒に過ごすことが難しいのには、理由がありますか？</p> <p>? →YESにもNOにも行かなかった理由は？</p>	<p>[YES][NO][?]</p> <p>と書いた紙</p>
展開 15分	<p>ワーク1「吹き出し」に書き込む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真を見て、各自が思いつくことばを吹き出しに書いてもらう。 ・書いたことを、グループで発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜそう書いたのか、写真のどこからその言葉が浮かんだのか説明しながら話し合う。 	<p>ワークシート 筆記用具</p>
10分	<p>ワーク2 話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験を通して、どのように変わっていくと思うか話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験を通して子どもたちが変わることを、得られること等をグループ内で自由に話し合う。 ・意見が出にくい場合は、ワーク1で考えた子どもと同じような言葉や、写真の表情などから考えてみるよう促す。 	
25分	<p>ワーク3「体験から得るもの」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データの説明をする。 ・各自が、付箋に体験から得られるものを3つ書く。 ・各自の意見をもとにグループで話し合い、分類する(KJ法)。 ・分類したの中から、大切だと思うものを3つ選び、ベスト3を決める。 ・それぞれのグループベスト3を掲示し、なぜそう思うのか発表してもらう。 ・必要に応じて、各グループの意見を比較し、共通のものや気になる意見などを発表してもらい、全体で協議する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活体験や自然体験について説明をするとともに、体験がある子どもほど、道徳観や正義感もあるということを説明する。 ・ワーク2の話し合いや、データを基に考えるよう促す。 ・各自が書いた付箋をグループの中央に出し合い、共通の意見はまとめ、分類する。 ・分類した意見に、見出しやタイトルをつける。 ・特に順序づけはしなくてよいことを伝える。 ・黒板などに一覧表を作り、各グループのベスト3を記入してもらう。 ・グループ数が少ない場合は、模造紙に記入したものを、そのまま掲示してもよい。 	<p>付箋紙</p> <p>模造紙</p> <p>マーカー</p>
まとめ 20分	<p>ワーク4 「体験」を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと一緒にできる「体験」や、させたい「体験」を思いつくままに書く。 ・グループ内で発表しながら、子どもと一緒にできる、子どもにさせたい「体験」を選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別なことではなく、お手伝いや遊びを含めた生活体験、自然体験でよいことを伝える。 ・「体験」を子どもに押しつけるのではなく、一緒に考え、一緒に体験するという視点が大切なことを伝え、家庭で子どもと一緒に考えるように伝えてまとめとする。 	